



ふるさと笠松の「ちょっといい話」No.79



「馬のまち笠松をつくり、笑顔をあふれさせたい！」

ペットとして馬を飼い、町中を散歩しませんか!?



笠松競馬場で誘導馬に関わる仕事をしてみえる塚本幸典(つかもと ゆきのり)さんは、時々馬に乗って散歩をしてみえます。散歩は競馬場の近くの堤防から、名鉄本線のガード下をくぐって、みなと公園を経て町役場へというコースです。本町や杉山邸付近も散歩されるとのことですから、塚本さんの馬に乗った散歩姿を見かけられた方も多いことでしょう。でも、どうして馬と散歩をされるようになったのでしょうか???

塚本さんは平成20年頃から馬との散歩をはじめられました。笠松競馬場で働く一人として、何か自分にできることはないだろうか考えた結果、馬の散歩を思いつかれました。馬を連れて町中に散歩に行くと、出会った人はとても驚きますが、次の瞬間には笑顔になるそうです。馬の顔をなせたり、お腹にふれたりする人も多くいるそうです。

馬は400Kgほどもある大きな動物ですが、とてもやさしくて、おとなしいとのこと。だから、是非ペットとして飼う人が出てきてほしいと願ってみえます。なぜなら、「馬がいつも身近にいる笠松町にすること」が塚本さんの「夢」だからです。塚本さんは「馬が犬のように町中を散歩しているようになれば、馬に出会う人全員が笑顔になれるのではないか。町民が笑顔になることこそ『町おこし』のねらいだと思うから是非、実現したい。さ



いわい、笠松町には笠松競馬場があるので、獣医さんや厩務員さんもいる。だから、馬の病気対策も調教も万全の体制をつくることができる。笠松町らしい『馬をペットとして飼う仕組み』を作り上げたい。そうすれば、馬好きな人が全国から移り住んでくるし、笑顔いっぱいのもちになる。」と、熱く語っていただきました。ポニーやミニチュアホースなどの馬を飼いたい方があれば、喜んで相談に乗りますとのこと。6畳ほどの広さがあれば十分だということです。糞尿もおがくずを使えば、臭くないとのこと。



笑顔あふれる笠松町にしたいという願いをかなえるために、塚本さんは今後も馬との散歩を続けるとのこと。みなと公園や本町付近で会えるかもしれませんね。そのときが楽しみですね。

町内で「ちょっといい話」を小耳にはさまれましたら、笠松中央公民館担当まで電話、FAX、手紙、意見箱などの方法で、ご連絡いただくと幸いです。記事にさせていただくことがあります。なお、この「ちょっといい話」は笠松町のホームページの「道德のまち」のバナーをクリックすることによって、第1号から最新号まで閲覧できます。ご利用ください。Tel 388-3926 FAX388-3233